



# 食材の宝庫!!エクアドルより①



遠藤由貴

遅くなりましたが…

**¡Feliz Año Nuevo! (明けましておめでとうございます!)**

## 【自己紹介】

青年海外協力隊として2014年7月にエクアドルに派遣され、約1ヶ月間の現地語学訓練を経て翌月の8月から任地で活動しています。短大卒業後に栄養士として4年間病院に勤務し、その間に管理栄養士の免許も取得しました。

生きていく上で食べることが大切なのは世界共通。まだまだ食育という概念がないこの国において、任地の状況を知るとともに、まずは自分自身の健康管理に興味を持ってもらうことから始めようと日々活動しています。

## 【エクアドルは食材の宝庫! ?】

エクアドルには春夏秋冬といった四季がありません。代わりに半年交代で雨季と乾季がやってきます。また、コスタ(海岸地帯)、シエラ(山岳地帯)、オリエンテ(熱帯雨林地帯)、ガラパゴス諸島のそれぞれの地域によっても気候が異なります。タイトルの通り、エクアドルは「食材の宝庫」。なぜなら、各地で育った豊富で美味しい食材が1年中手に入るからです。日本では見たこともないような野菜やフルーツたちに出会えるので、マーケットに行く度にワクワクしています。

今回は、エクアドルで過ごしたクリスマスと年末年始について写真とともに紹介します。

(次ページ)

## ◆クリスマス◆

この国はカトリック教徒が多いので、国民にとってクリスマスはとても重要なイベントです。そんなクリスマスは「クエンカ」という街で過ごしました。クエンカはこの国に赴任してすぐの語学訓練があった街で、その時のホームステイ先の家族のお宅にお邪魔しました。この時期のクエンカでは、色鮮やかな衣装に着飾った子供たちの行進があり、伝統ある一大イベントになっています。



※写真1（左上）…クエンカにある大きな教会。教会の上からも見渡すことのできる街並みは世界遺産に登録されています。

※写真2（左下）…教会近くの大通りを行進する子供たち。ナシミアント（イエス・キリストの誕生シーン）を演じたり、各土地の民族衣装を着飾ったり。朝から夕方まで途切れることなく続きます。

※写真3（右）…家庭のクリスマスツリー。日本のサンタクロースは枕元にプレゼントを置いていきますが、こちらではこのようにツリーの下に置いて一人ずつ名前を呼んで手渡しします。親から子へ、子から親へと。日頃の感謝を込めたプレゼント交換でもあるのだと心温まる時間でした。

## ◆年末年始◆

同期の隊員とともに「グアヤキル」という大都会で新年を迎えました。太平洋沿いの海岸地帯に位置するので、まさに気候は日本の夏。初めて雪のない暑い場所での年明けとなりました。派遣前訓練も含めると昨年4月から始まった協力隊生活。この国に赴任した当初は現地の生活や言葉に慣れようととにかく必死でしたが、多くの人に見守られようやく任地に溶け込んできた気がします。気付けばあっという間に半年が過ぎました。こうして2年間もあっという間に過ぎていくのかと思うと、1日1日を今以上に大切に過ごしていかなければと改めて感じました。本年もどうぞよろしくお願い致します。



※写真1（左上）…エクアドル特有？一年の厄落としのために大晦日の夜に等身大の人形を焼くという習慣があります。

※写真2（右上）…偶然見つけた野生のイグアナ。少し近づいただけで逃げてしまいました。人間に慣れていないようです。

※写真3（左下）…セビツェと呼ばれる魚介類のマリネ。新鮮な魚介類がとれるこの地方ならではの名物です。

※写真4（右下）…海辺での一場面。夕焼けに包まれながら2014年を振り返り、仲間との出会いに感謝した時間でした。